

## 第5回 第3次丹波市総合計画審議会 会議録

日時：2023年8月23日（水）

13:30～15:30

場所：丹波市役所 第2庁舎2階ホール

### 【出席者委員】（敬称略）

上羽 裕樹、岸本 好量、竹内 真子、植木 光敏、大野 亮祐、坂本 康子、金川 方子、  
柳瀬 長明、杉岡 秀紀、池畑 美帆（10名）

### 【欠席者委員】（敬称略）

森島 斉、細見 博美、足立 はるみ、寺内 清、實吉 直、山口 洋子

### 【事務局】

副市長、清水ふるさと創造部長、磯崎総合政策課長、多田政策係長、足立沙織主事、前川主査、  
足立大樹主査

配布資料：【資料1】第2次丹波市総合計画後期基本計画 評価・検証

【資料2】第3次丹波市総合計画施策体系案について

【資料3】第3次丹波市総合計画将来像案の決定について

【資料4】各市町の総合計画・将来像について（参考資料）※再配布

### 1. 開 会

#### 2. あいさつ

【副市長】 本日は第5回目の審議会となり、現行計画の評価・検証をとりまとめた資料をお示ししている。評価・検証にあたっては、庁内の各課で振り返りをし、これからの時代にあった行政運営をしていくため協議を進めてきた。本日は市民視点でご意見いただきたい。また、前回市民ワークショップやアンケートを踏まえて将来像をご検討いただいた。その結果、3案を提案していただいたので、本日はそれぞれに込められた思いが未来への願いにつながるよう一つにしていきたい。

【会 長】 本日は、第2次丹波市総合計画の評価・検証について、事務局から説明がある。ポイントを把握していただき、市民視点で意見をいただきたい。

#### 3. 協議事項

第2次丹波市総合計画（後期基本計）評価・検証について【資料1】

・・・事務局説明。

【課 長】 補足として、資料については、まだ未確定の部分もあるので案とさせていただきます、今後議会に向けて修正を加えて、確定したものを改めてお示ししたい。

【会 長】 1点目として、総合計画は最上位計画となっているので、計画に掲載されている取組に

基づきまちづくりを進めていくこととなるが、この5年間振り返ると、新型コロナウイルス感染症の拡大や自然災害などがあり、総合計画に書いていないことでも、その都度対応しなければならないものも出てくる。丹波市として、時代の潮流のなかで対応されてきたことを理解していただきたい。

2点目として、「達成度」「改善度」等で評価しているが、100%にすることは難しいことを理解していただきたい。その上で、今回行政としては、取組の進捗度や指標の数値について7割以上を達成しているの、一定の評価はできる。ただし、ここで満足するのではなく、少しずつ達成度を上げていくことを目指して行ってほしい。さらに今後は評価する時期についても5年に1回で良いかも含めて、市にはご検討いただきたい。評価・検証の結果は、市民全てに示すべきであると考えている。

3点目として、分厚い資料となっており、すぐに全てを理解できないものだと思う。ポイントを押さえていただき、今後の協議に活かしてもらいたい。

<A・Bグループに分かれてグループ内で、【資料1】について意見交換>

第3次丹波市総合計画施策体系案について、第3次丹波市総合計画将来像の決定【資料2～4】

・・・2グループに分かれて将来像について協議をした。

【会 長】 前回までの審議会で話し合ってきた将来像について、2つのグループの意見を合体させて『『まなび』と『ときめき』がとまらない 丹(まごころ)の里～未来にプラス1しよう 市民(あなた)主体の新時代～』として案を仮置きしていたが長すぎるとの指摘があった。もう少しシンプルにできないかという内部協議のなかで、言葉を置き換えて、「まなび、ときめき、輝く丹波市～まちの未来にあなたとプラス1～」という案が挙がってきた。また、「丹(まごころ)の里」というフレーズを使っていきたいというご意見が多かったことから、「まなび、ときめき、輝く丹(まごころ)の里～まちの未来にあなたとプラス1～」との案も資料に記載している。今日はこの案に、皆さんがこれまで協議されてきた想いが継承されているか確認するとともに、第3の案も出てくるかもしれないが、永遠に議論を続ける訳にはいかないので、1つにしていければと思っている。最終結論は、また先になるが、審議会としての意見をまとめたいと思う。

これまでのリマインドとして、1つは、オリジナリティがあることということを大切にしたい。2つは、第1次、第2次総合計画との被りという意味ではなく、他市のものまねになっていないか、丹波市ならではのものになっているか、という点を見ていただきたい。3つは、誰もが自然と口にできるものが良いので、言葉が分かりやすく、短い文にまとめるのが望ましい。そして、4つは、私たちみんなの将来像であり、行政の作文ではなく、自分たちから内発的に創りあげるものになって欲しいと思う。5つは、10年間変えることができないので、飽きずに使えるかチェックしてもらいたい。最後に、流行りの言葉は入れない方が良い。それらの点を踏まえ、できれば先ほど挙げた案のなかから1点を選んでもらいたい。また協議のなかで変わってくる意見があるかもしれないので、総合調整を最後にさせていただきたいと思う。

本日、資料2については初めて出す資料になるが、第3次総合計画の施策体系案である。

今後はこれをブラッシュアップしていく。ただし行政は継続性が重要であり、基本的に大きな柱が変わることはない。それでは、何が変わっていくのかというと、例えば、政策の順番。現行計画では、健康、医療、福祉などが上になっているが、第3次総合計画の政策体系では、子育て支援や子どもの教育、教育環境が上になっている。つまり、この施策に重点をおくというメッセージになっている。このあたりの想いを見ながら、将来像を考えていただきたい。資料にある施策すべてが将来像に当てはまる必要があるので、大きな齟齬がないか確認して欲しい。次回以降で、このまちづくりの目標の検討や施策の順番について協議していくので、本日は将来像の決定に注力して欲しい。

- 【Aグループ】 新しい案として、「まなび 輝く 丹（まごころ）の里 丹波市～ときめく未来へ～」を考えた。
- 事務局案も含めて、少し長いと感じたため、口にしやすいもう少し短くするのが良いのではという意見があり、検討した。
- 「丹（まごころ）の里 丹波市」というフレーズを使いたいと考えた。「プラス1」の表現はどうかという意見が出たので、「プラス1」を削除して、短くまとめて「ときめく未来へ」とした。
- 施策体系を見て、各施策と将来像のフレーズが全てリンクしていることが重要ではないかと考え、例えば、安全・安心政策や健康福祉政策、くらしの基盤政策は「丹（まごころ）」の部分で意味を拾え、活躍政策であれば「まなび」「ときめき」「輝く」というフレーズで拾えている。産業政策では「輝く」、環境政策では「里」というフレーズから緑豊かな環境を連想してもらえる。まちづくりの目標が、将来像に全て紐づく形になっていて、なおかつ覚えやすいフレーズとなったと思う。
- 全ての施策をまたぐ重要な視点として、少子高齢化問題の対策や人口減少対策が必要であると考えた。その対策の内容として、UターンIターンの施策、外から見て魅力的な市であるようにということや、教育・人材育成が充実しているという点で学びが大事だと考えた。

- 【会 長】 議論としては、「丹（まごころ）の里」と「丹波市」が被っていないかということ。この前には「第3次丹波市総合計画」という文言が入ってくるので、さらに重複する形になる。「丹（まごころ）の里」だけだと、市外の人から見て、丹波市を連想できる人が少ない。一方で、誰のための計画かということ、第1には市民・行政のためのものなので、市民が理解できていれば良いというのであれば、「丹（まごころ）の里」だけでも良いという見方もできる。他市の将来像を参考に「丹波市」を入れた方が良いとのことだと思うが、長くなった分はサブタイトルに「ときめき」をもっていったものとなっているので悩ましい。

- 【Bグループ】 将来像として資料の「まなび、ときめき、輝く丹（まごころ）里～まちの未来にあなたとプラス1～」の案が良いと思った。理由としては、語呂が良く、自然と口に出しやすい。それぞれのフレーズで見ると、子どもの教育や大人の社会教育がまちづくりの重要な視点であると考え、「まなび」ということが最初に来ているのが良いと思う。評価・検証の内容から、やはり市民の実感につながる施策の展開が必要となって

いる。市民が前向きに生活できるような、施策をとっていくという想いを込めて、「ときめき」という表現も入っている。市民の満足度も高く、そして、外から見ても丹波市が魅力的なまちとなって、その輝きに気づいてもらえるようになって欲しいという想いを込めて「輝く」というフレーズを使いたい。

「丹波市」よりも「丹（まごころ）里」とする方が優しい印象があり、現行計画ではサブタイトルに使われているフレーズだが、この表現を主題に持つことで、認知度を高めていきたい。フリガナ無しでも「丹（まごころ）の里」が読めるようになるくらい、定着させたい。

1点だけサブタイトルで、それぞれのフレーズを読点で区切っているが、これをスペースで分けた方が良いと思う。

将来像の実現に向けて、政策を横断し重要となる視点についても協議した。子どもが大人になったときに地域に帰ってきてもらえるようになるよう、子どもと地域を強く結びつけるような取組、例えば、ふるさとを好きになってもらえるようなふるさと学・教育の推進が重要であるという意見があった。他にも、担い手不足や人口対策、持続可能なまちになるようにというようにといった意見もあった。各家庭の生活環境や働く環境が多様化しており、その変化に対応できる丹波市であってほしいという想いもあった。

【会 長】 将来像については、資料案を採用し、読点をスペースにするなどの修正を加えるという意見をいただいた。重要視点のところまで議論いただき、持続可能な地域・まちづくりという視点についてご意見をいただいた。副市長にも意見を伺いたい。

【副市長】 感覚的に「ときめき」を自分もときめくという意味で「ときめく」としてはどうか。「あなたが」とすると、あなたに任せるという意味合いにもとれるので、自分自身を含む、「あなたと」と表現する方が良いと思った。「まなび」と「ときめく」は、主題の方で並列になっていた方が良い。「まなび ときめく 丹の里 丹波」としてはどうか。「輝く」は、短く覚えやすいものとするのであればなくす。もし残すのなら、サブタイトルに持っていけばどうか。

【会 長】 私が気になるのは「丹（まごころ）の里」と「丹波市」が被っている点である。副市長の意見も踏まえ、「まなび ときめく 丹（まごころ）の里～みんなが輝く、未来（たんば）へ」としてはどうか。最終決定は次回以降とし、今回はこれを案で仮置きとしたい。次回は施策体系のまちづくりの目標の協議について進めたい。

#### 4. その他

第6回丹波市総合計画審議会の開催

日時：令和5年10月6（金） 午後1時30分から

場所：丹波市役所 第2庁舎2階ホール

#### 5. 閉会

以上